



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



TOPICS ● トピックス

新年のご挨拶

朝焼けの富士山(河口湖より)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS	新年のご挨拶	P.01
特集	災害総合訓練実施について	P.02
	高宮先生の診察室から	P.03
	診療コラム	P.04
	病院★ニュース	P.05
	病院からのお知らせ掲示板	P.06
	デイケア通信	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

金沢医科大学氷見市民病院のホームページ
<http://www.kanazawa-med.ac.jp/~himi/>



金沢医科大学氷見市民病院



新年のご挨拶



最高経営責任者

神田 享勉

成長の年に

2026年の新年を迎えることになりました。能登半島地震から2年が経過し、回復への道を歩んでいます。実際、氷見市の被災された方を診療し、次第に日常を取り戻されていると実感しています。

昨年は、日米関税交渉や、政治的不安定化、物価高など身に迫る問題が発生しました。対応策で、トランプ大統領との直接交渉、女性初高市首相の誕生、ガソリン暫定税率廃止がとられています。当院でも医療材料高騰、診療報酬改訂、働き方改革の波が押し寄せています。

そんな中、患者さんからいただいた暖かいメッセージには癒されました。「病院のスタッフが皆さん

優しく、親切でした。殿様になった気分でした。また入院したいです。」「今まで、市外の病院に雇っていましたが、今回初めて氷見の病院に入院しました。皆さんが親切でした。私は氷見に生まれて良かったです。」「厳しいコメントも無いではありませんが、氷見市民の健康を預かる病院としてこれ以上の喜びはありません。

今年は、大学が公設民営化を任されてから19年目になります。20年が区切りとなり、新たな協定を結ぶ対応を検討しております。現在、教職員の健闘で夜間救急患者さんの対応が改善し、外来患者さんの待ち時間も減少傾向になっています。氷見市民の方々も金沢医科大学の運営継続を望んでいると思います。

市民の健康を守るため、今年を成長の年にしてゆきましょう。どうぞ皆さんよろしくお願い申し上げます。



病院長

伊藤 透

2026年 年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より当院の運営に関しましては、多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、私たちは地域医療の重要性を改めて深く認識する一年を過ごしました。能登半島地震からの復興が歩みを進める中で、当院は氷見市唯一の公立の病院として、また金沢医科大学の知見を結集した拠点として、絶え間なく医療を提供し続ける使命を全うして参りました。

本年、当院が目指すのは病院として、「地域に寄り添い、進化し続ける医療体制」です。

第二に、大学附属病院としての強みを活かし、高度で専門的な医療サービスの提供に努めると共に、高齢化の進んでい

る当地域の特性である高齢者救急の分野においても充実を図って参ります。特に、整形外科領域の骨折疾患、脳神経内科・外科領域の脳梗塞、脳出血疾患、呼吸器内科領域の誤嚥性肺炎等については、今後もしっかりと対応させて頂きます。加えてがん診療や救急医療、生活習慣病への対応など、市民の皆様が住み慣れたこの地で安心して最先端の治療を受けられる体制をさらに強化して参ります。

第二に、市長が提案されている地域包括ケアシステムの核として、近隣の医療機関や介護福祉施設との連携を深化させます。少子高齢化が進む中で、単に病気を治すだけでなく、患者様の「生活」を支え、人生の質（QOL）を向上させるための「顔の見える連携」を推進いたします。医療を取り巻く環境は刻々と変化しておりますが、私たちの原点は常に患者様にあります。全職員が「良質な医療を提供し、信頼される病院」という理念を胸に、対話を大切にした温かい医療を実践していく所存です。

本年が皆様にとって、健康で笑顔あふれる幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。





消火訓練の様子



11月13日(木)今年度の災害総合訓練を午前、午後、夜間の3部構成で実施しました。午前中の火災訓練では、氷見消防署と合同で3階病棟からの出火を想定し、病院初期消火班・誘導班による消火訓練・避難誘導訓練で手順などの確認を行いました。その後消防隊が院内へ進入し、病棟内に消火ホースを伸ばし実際の火災現場さながらの消火訓練や、梯子車を用いて3階からの避難訓練も実施しました。氷見消防署からは、消防署長をはじめ多くの消防隊員にご参加いただき、緊張感のある訓練を実施することで当院との連携協力体制等を確認することができました。

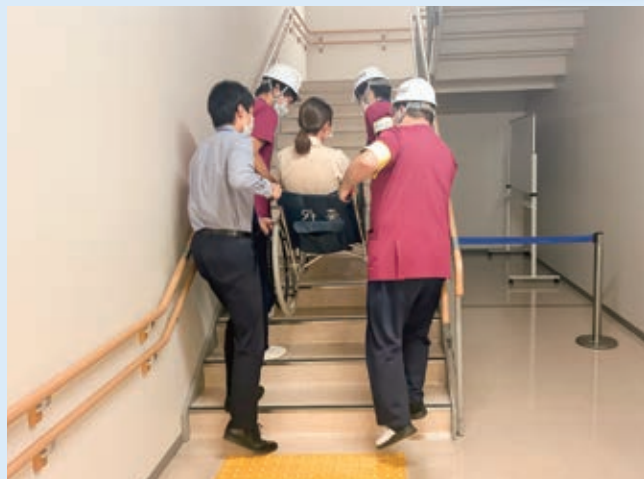
特集

災害総合訓練実施について



いつ起こるか分からない災害に備えるために職員一人一人が、防火・防災意識を高め、患者さんや職員にとって安心安全な病院となるようこれからも取り組んでいきます。

午後からは、地震・津波を想定した災害訓練を実施し、エアストレッチャーを用いた上階への垂直避難誘導訓練や、車椅子ごと上階へ運ぶ訓練などを実施しました。エアストレッチャーの使用に慣れていない職員もあり、訓練を繰り返し行う必要性を改めて実感しました。また、夜間には連絡通報訓練を実施し、非常時の連絡体制を確認しました。



車椅子ごと上階へ運ぶ訓練

たかみち
高宮先生の
診察室から

皮膚科

高宮

YUKO
TAKAMIYA

悠子

2

024年11月より、皮膚科に着任いたしました高宮と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今回は、これからの寒い季節によく見られる「乾燥による皮膚のトラブル」についてお話しさせていただきます。

なぜ冬は肌が乾燥しやすいのでしょうか？



私たちの皮膚の一番外側にある層（角層）は、体内の水分が外に逃げるのを防いだり、外から微生物などが入るのを防いだりする大切なバリアの役割をしています。皮膚は、脂肪酸や天然保湿因子による皮膚内の水分を保つ機能や、皮脂や汗によって形成される表皮被覆機能のおかげで乾燥から守られています。しかし、冬になると、このバリア機能が壊れやすくなり、乾燥が進んでしまいます。

乾燥の原因（特に冬の生活習慣）

◆大気の乾燥：冬は空気が乾燥しており、さらに暖房を使うことで室内の湿度が下がり、皮膚の水分が奪われます。

◆洗すぎ：熱いお風呂に長く浸かりすぎたり、洗浄力の強い石鹸を使い、ナイロンタオルなどで体をゴシゴシ洗うと、肌の保湿成分（天然保湿因子）が流出して乾燥肌になりやすくなります。

乾燥から「かゆみ」「湿疹」へ

乾燥した肌は、かゆみを感じやすくなります。かゆみで掻き壊したところが炎症をきたして「湿疹」になってしまいます。特に、すね（下腿の表側）は、もともと皮脂や汗をかきにくい場所であるため、この季節に乾燥や湿疹が起こりやすい場所です。



乾燥肌を防ぐための対策

乾燥肌や湿疹を予防するためには、「保湿」と「正しい洗い方」がカギになります。



① 毎日の保湿ケア

◆保湿剤を塗る：保湿クリームなどを使い、肌を保湿しましょう。特に入浴後、お風呂から上がった後（角層から水分が最も蒸発しやすい時）に、保湿クリームを塗ることが大切です。

② 入浴・洗浄時の注意点

◆優しく洗う：石鹸や洗浄剤はよく泡立てて、その泡を手のひらに乗せて優しくなでるように洗うようにしましょう。ナイロンタオルやブラシなどの過度の使用は、肌の乾燥を悪化させてしまいます。

③ 室内の湿度管理

◆加湿器を活用：加湿器などを適切に使い、お部屋の湿度を保つようにしましょう。

高宮 悠子 ★ 略歴

【学歴・職歴】

令和3年
金沢医科大学医学部 卒業

令和5年
金沢医科大学皮膚科学講座入局

令和6年11月
金沢医科大学氷見市民病院



診療コラム

内視鏡センターの紹介

内視鏡センターでの総検査件数は毎年約3500件あり、主な内訳は通常の上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、および気管支鏡検査、胸腔鏡検査です。

内視鏡的治療については、食道上皮内癌、早期胃癌、早期大腸癌への内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に行っています。また通常、大腸内視鏡検査では大腸ポリープ切除術が施行されています。



胃カメラ

当院では苦痛を緩和させるために希望があれば鎮静剤を用いての胃カメラを行っています。また経口に比べて嘔吐反射が少なく、比較的楽に検査を行える経鼻内視鏡も選択することができます。

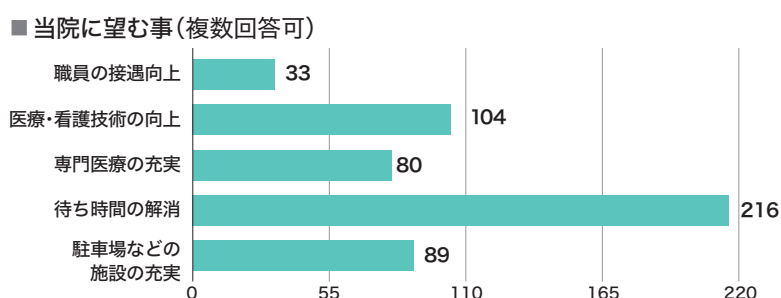
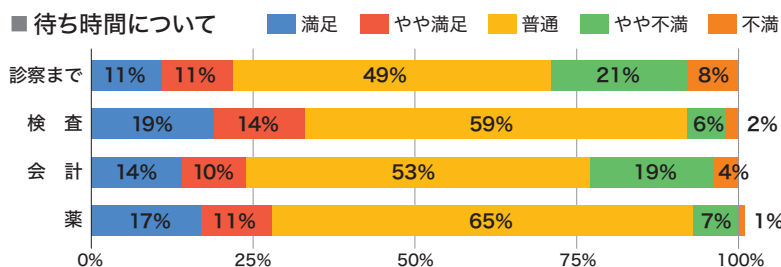


大腸カメラ

近年大腸癌が増加傾向にあり、早期発見が重要となっています。当院では検査からポリープ切除、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行います。



内視鏡センターでの役割は多岐にわたり、その業務には確実で迅速、かつ安全性が要求されます。より良い内視鏡診断・治療の提供に向けて、センタースタッフ全員が協力し日々の業務に努めています。



当院では毎年、医療サービスの向上を目的に、外来を受診された患者さんにアンケート調査を行っています。今年度は、10月7日(火・8日(水))に調査を実施し、519名の方からご意見を伺いました。ご協力いただきました皆様には、心から感謝申し上げます。当院への要望は待ち時間の解消が約4割、続いて医療・看護技術の向上を望む声が多くありました。寄せられたご意見をもとに改善や対策を検討し、よりよい病院づくりに努めてまいります。



外来患者さんの満足度調査

令和7年度の調査結果をご報告します



病院機能評価の 認定について

当院は、令和7年6月19日、20日に実施された公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(主たる機能…一般病院2、機能種別版項目3rdG: Ver.3.0)のサーベイを受審し、10月3日に認定を取得いたしました。



伊藤病院長、森山副院長(病院機能自己点検・評価委員長)

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う受審時期の変更などにより、準備期間が極めて短期中での受審となりましたが、限られた時間の中

で診療部、看護部をはじめ多くの職員が一丸となり、改善と整備を積み重ねてまいりました。今回の認定を通じ、一定水準以上の医療サービスを提供できると評価され、当院の医療安全体制や地域医療への貢献が改めて確認されたものです。

今後もこの成果を礎に、地域に根ざした信頼される病院づくりに取り組んでまいります。



私立医科大学協会 医療安全・感染対策部門の 相互ラウンド

日時 令和7年11月17日(月) 10時～13時30分
来訪病院 獨協医科大学日光医療センター

右記日程において、当院の6階多目的ホールにて令和7年度私立医科大学協会医療安全・感染対策部門の相互ラウンドを実施しました。今年度は、獨協医科大学日光医療センターから、医療安全及び感染対策部門のスタッフ総勢11名の訪問がありました。

当日は2部門に分かれ、医療安全部門では医薬品や医療機器の安全管理等について、感染対

策部門では感染対策のコンサルテーションや抗菌薬の適正使用等について、自己評価表に基づきヒアリングが行われました。続いて院内ラウンドでは、病棟や薬剤部、外来、血液浄化センター等を訪問しました。

ヒアリング及び院内ラウンドを通して、各施設での現状や困っている点などについて、活発に意見交換が行われ、実りのある時間となりました。今回のラウンドでの評価を参考に、医療安全・感染対策の強化、改善を続けていきます。



院内ラウンドの様子

病院からの

お知らせ

掲示板

冬季の駐車場利用について ～病院からのお願い～

冬期間中は、積雪や凍結が起こり、当院でも毎年、駐車場や構内道路での転倒や事故が非常に多く発生しています。

病院の敷地内については、職員による除雪作業を行い、患者さんへの危険が少なくなるよう努力しておりますが、来院の際は十分ご注意ください。

歩行者の方

滑りにくい靴の着用や、足元を意識してゆっくり歩くなど、転倒には十分注意の上、時間に余裕をもって来院ください。



車で来院される方

天候による視界不良や、路面凍結によるスリップの恐れがあるため、駐車場や構内道路では最徐行の徹底をお願いします。また、積雪により十分な駐車スペースが確保できない場合もございますが、ご理解の程をお願いします。



令和7年度 第2回 市民公開講座開催について

年2回、市民の皆さんの健康増進に役立てていただく事を目的に、当院の医師や医療スタッフが、病気や医療についてわかりやすくお話しています。

日時	令和8年1月24日(土) 13時30分～15時30分(受付:13時～)
場所	氷見市芸術文化館ホール

講演内容

座長:小児科准教授 藤木 拓磨

メイン
テーマ

“こども”から“おとな”まで
知っておきたい目のおはなし

講演①「大切な目をいたわろう
～アイフレイルってなに?～」

講師:視能訓練士 山崎 陽子

講演②「明るい未来のために
知っておきたいこどもの近視」

講師:眼科助教 藤田 信之

■お問合せ:総務課 ☎74-1900 (内線2022～2024)

管理栄養士の ヘルシーレシピ

大根とハムの レモンマヨネーズサラダ



1人分の栄養量

エネルギー:183kcal
たんぱく質:6.0g 塩分:0.9g

冬はスープや鍋、年末年始のごちそうで塩分が気になる時期だと思います。そんな季節にぴったりの旬の大根とレモンで作る“さっぱり減塩サラダ”をご紹介します。

◆ 材料:2人分

・大根……………1/4本
・ロースハム……………2枚

< 調味料 >

・マヨネーズ……………大さじ1杯
・レモン果汁……………大さじ1杯
・こしょう……………適量

◆ 作り方

- ① 大根の皮をむいてから太めの千切りにします。
- ② 大根をザルに入れて塩を振ってから10分程度おき、水洗いしたあと水分をギュッと絞っておきます。
- ③ ハムを半分に切ったあと、千切りにします。
- ④ ボウルに大根、ハム、調味料を入れ、しっかり混ぜ合わせたら完成です！

コツ・
ポイント

- ・レモンの量はお好みで加減してください。
- ・大根に塩を振ったあとは、よく洗ってから水分を取り除いてください。

切って和えるだけ!
ビタミンCで
冬の体調管理!



病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。
8. 安定した経営基盤の確立に努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で質の高い医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報保護は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかがご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないよう配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っています。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

デイケア通信

冬も安全な入浴支援

寒さが厳しくなる冬は身体が冷えやすく、血圧の変動や転倒の危険が高まる季節です。通所リハビリテーションでは、希望される利用者さんに対し、入浴サービスを提供しています。皆さんが安心して過ごし快適に入浴していただけるよう、脱衣室には暖房を入れ、浴室には電熱ヒーターを設置し、温度差によるヒートショックを防ぐ工夫をしています。



電熱ヒーター



入浴前には血圧測定や体調確認を行い、入浴時には手足の末端から身体を中心へ向かってかけ湯をして身体を慣らしします。湯温は41℃を目安にし、長時間の入浴は避けています。

入浴前後にはしっかりと水分補給を行い、乾燥や脱水にも気を付けています。



脱衣所に暖房、浴室には電熱ヒーターを設置。温度差によるヒートショックを防ぐ工夫をしています。

また、リハビリや体操では、笑顔で会話を交わしながら身体を動かすことで、心も身体もほかほかになります。寒い日でも、皆さんの元気な声が通所リハビリテーションに響いています。これからの季節、無理せず身体を温めながら、元気に寒い冬を乗り切りましょう。

表紙について

過去に富士山を幾度か見たことはありましたが、登山をしたときに遠くに見る程度でした。昨年初めて山梨県を訪れ、目の前に広がる大パノラマの富士山に言葉にできないほどの衝撃を受けました。「日本一」と言われる所以は「標高だけではない」とその魅力に一瞬で虜になりました。初夢に見ると縁起が良いものを表すことわざに「一富士二鷹三茄子」があります。2026年最初の「かけはし」発刊ということで、縁起の良い写真を表紙とさせていただきます。皆さんにとって幸多き1年となりますように。

編集後記

寒さが一段と厳しくなり、体調管理が気になる季節となりました。冬は風邪や感染症だけでなく、血圧の変動や転倒などにも注意が必要な時期です。今回の広報誌では、地域の皆さまが寒い季節も安心して過ごしていただけるよう、健康管理に役立つ情報や当院の取り組みをご紹介します。これからも、身近で相談しやすい病院として、地域の健康を支えてまいります。本誌が皆さまの健やかな冬の一助となれば幸いです。

かけはし冬号編集委員 腎臓内科 加賀谷 侑

■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。